

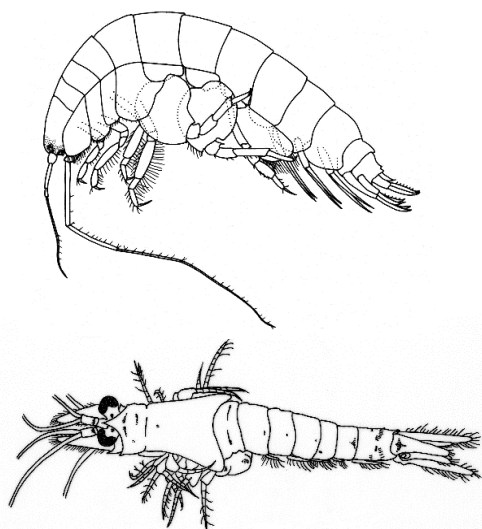
## 第20回水圏生物学セミナー

# 「稚魚成育場での食ったり食われたり」

講師 <sup>すどう</sup> 首藤宏幸氏（瀬戸内海区水産研究所）

日時：2018年12月19日（水） 13:00～

場所：生物生産学部 C314



沿岸域にはマダイやヒラメ、カレイ類といった多くの水産重要魚種の成育場が形成され、ここでの稚魚の生き残りが、その後の資源量を左右する主要因の一つとなっています。これら稚魚の生き残りにとっての最重要事項は、「いかに餌をとるか」、そして、「いかに捕食者から逃れるか」です。このセミナーでは、「いかに餌をとるか」について、マダイ、ヒラメ、ホシガレイ稚魚と、主食であるヨコエビ類（端脚類）、アミ類を例に、両者の「食うー食われる」関係を説明します。さらに、主要餌料種となるニッポンスガメ（ヨコエビ類）とオオトゲハマアミ（アミ類）の生産生態を紹介し、成育場でのマダイとヒラメの餌の過不足に言及します。また、アマモ場の餌料供給源としての重要性にもふれます。「いかに捕食者から逃れるか」については、成育場に放流されたヒラメ種苗を例に、放流直後のヒラメの急激な減耗に、捕食者が大きく関与していることを示します。

沿岸域の魚類資源とその餌や捕食者との関わり（生物種間関係）について第一線で研究を続けて来られた首藤氏のお話を聞ける機会ですので、ぜひご参加ください。

**本講演は5研究科の共同セミナーの単位になります。**

問い合わせ先：

大学院水圏科学研究科 富山毅（水圏資源生物学、内線 7941） [tomiya@hiroshima-u.ac.jp](mailto:tomiya@hiroshima-u.ac.jp)